

29名のオリエンテーリング関係者が御殿場に集まり約3時間に渡ってパネルディスカッションが行われた。ここに集まったメンバーは何よりオリエンテーリングが好きなメンバーであり、熱のこもった思いが語られた。

早大OC大会を翌日に控えた2002年2月16日、静岡県御殿場市でフォーラム「オリエンテーリングの近未来」が開催された。

社会とオリエンテーリング

パネラー：里山 樹
(株)テックインターナショナル

私がオリエンテーリングを知ったきっかけからお話します。テックインターナショナルはスント社の林業関係製品(精密機器)の日本代理店をしています。スント社より配られる「スントニュース」という雑誌にオリエンテーリングの記事を見つけたのが最初です。そこで初めてオリエンテーリングがスポーツであると知りました。興味をもった私はオリエンテーリングについて調べようとしたのですが、出版物が何もありませんでした。資料も古いものしかありませんでした。今でこそインターネットを使えばオリエンテーリングの事がいろいろと調べることができますが、1995年ごろはまだインターネットもそれほど使えただけではなく、結局、オリエンテーリングの詳細を調べることはできませんでした。

私の目から見て、オリエンテーリングという競技は、これほど豊富なコンテンツがありながら、どうして普及していないのだらうかと思議に思います。しかしそれは「オリエンテーリング=レクリエーション」の図式が国民の脳に刷り込まれていて、その向こうにある競技の素晴らしい世界が見えてこないのが原因となっているような気がします。また、競技会の雰囲気も一種独特なものがあり、この世界を充分に知っている人間でないイベントに入りにくいものがあります。実はこの問題は日本国内に限ったこ

とではなく、北欧でも同じ問題を抱えているようです。オリエンテーリングはTVメディアに載せにくいことが普及のネックになっているようです。

オリエンテーリングという競技の性格は、一度経験してみないとその仕組みが分かりにくいところがあります。ここが野球やサッカーなどのスタジアムで行われる競技とは違っており、普及の妨げとなっている要因ともなっています。

またオリエンテーリングを観戦するにあたっては、結果のリアルタイム性に乏しいことも盛り上がりを欠く要因となっています。タイムスタート方式で行われると、フィニッシュしてすぐに結果が出ません。スポーツ観戦をしていてこの結果の透明性というリアルタイム性というのは観客を引き付ける大きな要素となるはずで

これは参加する側としても同じことで、フィニッシュと同時に順位が分かるようなリアルタイム性と結果の透明性がオリエンテーリング参加を大衆にアピールする上で重要ではないかと思ひます。

一方、オリエンテーリングは大変魅力的なコンテンツに溢れていると思える事例があります。例えば、クロスアドベンチャーイベントの中で、オリエンテーリング種目が取り入れられることが最近増えてきています。競技の参加者に聞くと、オリエンテーリングがあるとイベント自体が大変面白いと言われることが多いです。クロスアドベンチャーの中でもオリエンテーリングは人気種目なのです。今後、この方面からオリエンテーリングを世間に認知してもらえるような、そんな扉を開いていくことができるのではないかと思います。

オリエンテーリングへの扉を開けば、面白い世界が広がっています。しかし一般のかたはなかなかその扉の向こうの面白さまで辿り着けないのです。こうした人達に対してオリエンティア側から参加をよびかけるメッセージが欲しいと思います。

(以上里山)



村越氏(左)と里山氏(右)

オリエンテーリングの普及について

パネラー：村越 真
(JOA 普及教育委員会)

2002年度、学校教育が大きく変化しようとしています。学習指導要領の改訂が行われ、「生きる力」がクローズアップされます。これを養うための自然体験・社会体験を学校教育の中でもっと増やそうとしています。

その中心となる舞台が地域総合型スポーツクラブと呼ばれるものです。計画によると中学校区、つまり人口1万人にひとつこうした地域総合型スポーツクラブを設立し、このクラブを通じてこうした自然体験・社会体験教育を実践しようとしています。

なぜここにきて地域総合型スポーツクラブが推進されるのでしょうか？今まで学校教育の現場、例えば中学校でクラブといえば課外クラブが活動の中心となっていました。教育の現場はあくまでも学校の中で閉じていたのです。

2002年度から学校においても週休2日制に移行します。教員は週5日の平日中で学校教育を行わなくてはならず、非常に多忙となります。そんな中、教師がこうした社会体験の指導までできなくなってきます。今まで学校教育に囲い込まれたクラブ活動を地域に任すことによってこの問題を解決しようとしているわけです。

これともうひとつ、学校活動でオリ

エンターリングを行う障害になっているのは徹底した生徒の管理を求められている事です。このため教師は事故に対して非常に敏感になっており、少しでも事故の可能性があるものは排除されてしまいます。

次に私が小学校の教育現場でオリエンターリングを指導した時の経験からお話します。

まず、オリエンターリングはどこでもできるということがあまり理解されていません。遠くの森へ行かなくても、オリエンターリングは大体の学校の近くでできるはずですよ。

そして子供たちに競技を行わせる時は勝ち負けのはっきりしたゲーム性も必要でしょう。このあたりに関しては色々なノウハウがあると思いますが、現在のところ統一されたパッケージがなく、こうした学校オリエンターリングのパッケージが必要なのではないかと考えています。

(以上村越)

オリエンターリングと社会

パネラー：高橋 厚(多摩OL)



オリエンターリングは言うまでも無く、人の土地・人の生活圏を使用して初めて成立するスポーツです。日本体育協会に55の団体が加盟していますが、この中で、人の土地を利用するスポーツはオリエンターリングだけです。オリエンターリングの他にあって該当するスポーツと言えば山岳スポーツくらいでしょうか。

オリエンターリングが社会への貢献できることというと、まずはトレイル0。これにより身体障害者にもオリエンターリングに親しんでいく道筋ができました。これによって障害者の方

に屋外の楽しさを与えることができるのではないかと思います。

また、オリエンターリングを行うことによって培われたナビゲーション技術は社会生活面に応用できるのではないかと考えています。

一方オリエンターリングが社会に与えるデメリットとしては、環境面への影響と他人の生活圏への立ち入りがあります。

実際にオリエンターリング競技の運営を行っている、自然環境の配慮というのは大きな負担ではありません。それよりも人様への生活圏・地域社会への立ち入りについてどう折り合いをつけるかが一番大変な問題なのです。競技者が不審者扱いされることが最悪でして、これの対応を粗末にすると後に大きな問題となります。

私たちはオリエンティアの立場でしか地域を見ていないのではないかと考えています。地域社会にはそれなりのルールがあるので、そこに入って競技を行うためには、競技者ひとりひとりの教育しかないのではないかと考えています。

2001年に多摩JC大会で競技者が地元でゴミを捨ててゆき、大きな問題となりました。これ以降、地図販売の時にこうした問題を発生させないように誓約書を出すことを義務づけました。また2002年のJC大会では参加者一人一人から申し込み時に誓約書を書かせ、こうしたマナー遵守を強く呼びかけるようにしました。他の競技会でもこうした活動を広げていって、競技参加者のマナー意識向上を呼びかけていって欲しいと思います。

(以上高橋)

ここまでの議題に関する

ディスカッション

【里山】

オリエンターリングの魅力の発信についてですが、形の上からもオリエンターリングを魅力的に見せる工夫も必要だと思います。例えばファッション。スポーツする上でファッション性は重要です。単純に自分も真似したくなるようなウェアにしてみたらどうかと思います。

【木村】

私はこうしたオリエンターリングマガジンやwebサイトをやっていますが、一枚の写真で競技を語らせることが重要だと思っています。野球やサッカーは一枚の写真で何のスポーツをし

ているのか判ります。このように写真に語らせることができるように、オリエンターリングもウェアを工夫することが重要だと思います。

【里山】

オリエンターリングの結果の透明性・リアルタイム性についてですが、タイムスタート方式のポイントオリエンターリングはフィニッシュした瞬間に自分の順位が分からない。あれでは大衆性が無いと思います。やはりマススタートでフィニッシュと同時にほぼ順位が確定するスコアオリエンターリングのほうが大衆性はあるのかなと思っています。

【木村】

大衆性ということでしたら、ピンゴ0をお勧めしたいと思います。マススタートで、順位はフィニッシュ順となるので、結果の透明性があります。特に初心者イベントではイチオシだと思います。

【村越】

スクール0の実践方法なのですが、まず第一段階として、学校内部だけを使用した同時スタートのフリーポイントオリエンターリングを行いました。こうしてまずは体験コースを回させてみると次の段階への移行が早いです。今回はこの第一段階でパンチのかわりにシールを使用しましたが、これも子供にはとてもウケていました。

このようなステップを踏んだ上で第二段階の学校周辺のオリエンターリングを行うと、より競技への理解度も高まりました。

【参加者】

このように初心者指導に力を注げるというですね。一般の競技会では上級者と初心者を一緒におこなうと運営に無理が生じているという側面もあります。

【鈴木】

確かに多種多様な人が参加する大会の運営は大変でしょう。しかし大勢の人が参加している大会というのは、交流を生みます。直接言葉を交わさないにしても、トリムと個人クラスはフィニッシュを同じにして、トリム参加者に個人クラス参加者の走る姿を見せることも重要だと思います。

【村越】

普及を促進されるには、書籍と一体となったオリエンターリングパッケージが必要なかなと思っています。そのパッケージを購入すれば、スクール0用のシールなんかも付いてくるというですね。

【鈴木】

普及に関して、もう二点意見があります。現在の日本社会一般では国土地理院の地図を使用しています。この国土地理院の地図の記号を覚えてもらうにも教育が必要です。しかし、O-mapはまたさらに違った基準で地図記号が記載されています。これでは初心者にとって覚えることが多すぎます。これが普及阻害の一面となっているところがあるのではないのでしょうか。

また一般大会におけるクラス分けで「トリム」という言葉は判りづらいです。「グループクラス」とでも名前を変えるべきでしょう。初めての人はまず、その名前を見て内容が理解できません。こんなところも普及阻害の要因となっているのでしょうか。

【清水】

実際に町内会、公民館行事としてオリエンテーリングを行うことがあります。しかしこれがどれだけ次に参加してくれるのか判りません。こうした活動がどれだけ実を結んでいるのやら。

【宮川】

現在の日本で新規のオリエンテーリング愛好家を最も多く輩出しているのが、大学クラブです。しかし、こうした大学クラブに入ってくる人は、ある日突然、オリエンテーリングを始めるわけではありません。小学生の時のオリエンテーリング体験が大学の入学につながっていることが多いです。やはりとにかく一度経験していただくことが必要なのです。

現在地域で実践されている普及活動は多くの方のオリエンテーリング体験となり、伏流水のようにある日突然効果が現れるものだと思います。

(以上ディスカッション)

近未来の中で2005年の世界選手権の位置づけ

パネラー：新帯 亮
(WOC2005 準備委員会)

オリエンテーリングも普通のスポーツになって欲しいです。そのためにはオリエンテーリングも、もっと外向けの努力をしましょう。

他のスポーツはもっと多段階の階層構造があります。国際大会に出場する一番上の層、日常的に草競技会に出場する層、競技会にはあまり参加しないで休日のみフリーで楽しむ層。ところがオリエンテーリングは上層と下層がありません。



オリエンテーリングの上層と下層を同時に充実させたいと思っています。世界選手権を日本に誘致することにより、上層を強化し、同時に下層も強化したいと思います。しかしそのためのPRとして、現在の日本においてオリエンテーリングというコンテンツだけではハッキリ言って力不足です。このために愛知万博の力を借りたいと考えています。

オリエンテーリングの愛知万博への売り込みは、飛び込み営業から始まりました。万博協会に売り込む時のキーワードは、生きる力、ナビゲーション能力。これは愛知万博のテーマ「自然との共生」に通じるところがあります。

この愛知万博は大手広告代理店「電通」が深く関わっています。その電通を2001年の愛知インカレ会場に招待して、オリエンテーリングの視察をしていただくところまで行きました。

そこで言われたことは、先ほどのディスカッションも話題になったユニホームについてです。マスメディアに訴える時はユニホームが重要です。同じチームでは必ず統一するなどして欲しいと思います。またマスメディアに訴えるには会場のデコレーションも重要です。

世界選手権の効果

- ・日本アジア地区におけるオリエンテーリング地位の向上。(オリンピックを目指す)
- ・国内の競技力の向上
- ・国内での認知度のアップ(マスメディア)
- ・営業ノウハウの蓄積

まずはビジョンがあって、組織は後

からついてくるものだと思っています。現在の日本において、こうした営業はオリエンティア自身がやるしかないのです。

日本の選手強化の現状

パネラー：藤井 範久 (SQUAD)



スコードはオリエンテーリング選手強化を支援する任意団体です。現在、日本オリエンテーリング協会に選手強化の為に組織はありません。

2005年に愛知で開催される世界選手権で日本が6位入賞できれば、日本国内でのオリエンテーリングの知名度向上に役立つだろうと考えています。

先日、日本オリエンテーリング協会の会長が小野清子氏に交代しました。そのパーティの席で新会長は2005年の世界選手権で日本選手は是非メダルを取ってくださと激励されました。やはりメダルが取れそうにないとマスメディアは食いついてこないでしょう。

実際の話としては、2001年の世界選手権の結果は、個人戦50位前後、リレーは20位前後となっており、メダル、あるいは6位というのはとても高い目標です。

そこで当面は個人20位あたりが目標です。個人で20位が狙えればリレーで6位を狙えます。この6位あたりの成績ならマスコミも食いついてくるかも知れません。この目標について正月にキックオフ合宿を行なった時、選手たちも納得してくれました。アマチュアで狙えるのはこのあたりが限界かも知れません。これ以上の成績はセミプロ化しないと難しいでしょう。

スコードは今まで20年活動を続けていきました。20年たった成果は今のと

おりです。今までのスコードの活動をそのまま継続しても、世界選手権の入賞という目標は達成できないでしょう。そのために新しい方策を探っているところです。

例えば、エリートオリエンティアの最大酸素摂取量などを測定して他のスポーツ選手との比較を行なうことも始めました。

いずれにしても選手強化にはお金がかかります。そのためにはスポンサーからの資金援助が欲しいところです。しかし任意団体ではスポンサー支援を取り付けることが難しいのが現状です。できれば日本オリエンテリング協会の組織として活動したいと思っています。

【参加者】

スコードでは今まで世界選手権に対して選手を強化するなどの活動をしているが、そうした活動にはどのくらいの費用がかかっているのですか？

【藤井】

選手強化にはお金がかかります。世界選手権にただ日本選手団が参加するだけでも300万円台はかかっています。また人数を増やした大規模な合宿を行うと、その費用は100万円かかります。

日本オリエンテリング協会の現状

パネラー：鈴木司（JOA 専務理事）



日本オリエンテリング協会は、2002年2月現在、東京の三田に事務所を構えています。この事務所は2001年5月に会長職を去った大野氏が10年間提供してくださったものです。

2002年3月までは現在の三田事務所の家賃は森永乳業がバックアップしてくださるということですが、その後は日本オリエンテリング協会自身が考えなくてはなりません。

東京三田の事務所の家賃は¥30万/月ほどとなっており、これを維持するだけの財力が残念ながら現在の日本オ

リエンテリング協会にはありません。そこで事務局をもっと家賃の安い場所に移転せざるを得ない状況となっています。現在、東京以外の場所も踏まえて検討中です。

オリエンティアの公認大会離れについては色々意見があることですが、オリエンテリングだけがイベントの参加者を減らしているわけではありません。ウォーキングなんかも軒並み参加人数が少ないようです。もちろん参加料が高いということとオリエンティア自体が減少傾向にあることもその一因として考えられると思います。

そもそもオリエンテリングは昭和48年の普及活動で日本国内で発展してきました。この頃、オリエンテリングは国民体力づくり運動の一環で行われていて、国から地方自治体にヒモ付き補助金が配られたいたのです。この補助金がオリエンテリングの普及に大いに役立ちました。この補助金を使って自治体はオリエンテリング指導員を育成したのです。

オリエンテリングの普及活動は任意で活動しても良いのですが、このように行政をうまく利用すると、普及活動が非常に早いと思います。

(おわり)

別の視点から日本のオリエンテリングを斬る！ そんなセミナーが行われます。参加者を募集しています。

JOA(日本オリエンテリング協会)問題に関するセミナー(意見交換会)

～北信越オリエンテリングクラブ連絡協議会 結成10周年記念イベント～

趣旨

近年、学生を中心としてJOA主催大会等への参加者数が減少傾向にある中で、主催大会等の置かれている現状及び問題点やJOAの事業計画等について把握するとともに、オリエンティアに期待されるJOAの在り方や改善に向けた建設的な意見交換、さらには、その実現に向けた取り組みを行うことにより、OLの普及発展を図る。

日時:平成14年4月6日(土)15:00-(金沢大学大会の前日)

場所:「セミナーハウスあいらす」
石川県加賀市
JR加賀温泉駅から徒歩30分

主催:北信越オリエンテリングクラブ連絡協議会

後援:オリエンテリングマガジン
参加者:北信越OL連協関係者以外にも、JOA問題に関心のある方を広く全国から募集する。

内容

15:00 集合、受付

15:30-17:30

第1部(JOA主催大会等について)
・福井県OL協会から東日本大会の運営について、まず事例発表をしてもらい意見交換を行う。

19:30-21:30

第2部(JOA改革について)
・JOA関係者から、JOAの現状及び14年度事業計画等について、まず説明してもらい、意見交換を行う。

《本セミナーの特徴》

セミナーはJOA主催大会やJOAの事業、予算にテーマを絞り込んで、できるだけ深く意見交換を行うとともに、北信越OL連協らしく地方の立場にも視点を置いたものとする。

セミナーで発表された意見、提言をその場限りで埋没させることなく、実効性のあるものとするために、北信

越OL連協事務局で取りまとめ、セミナー参加者を通じて各県協会に持ち帰って議論していただき、各県協会からJOAの事業計画等に反映されるよう働きかけを行ってもらうこととしている。

参加費

1泊2食 ¥6,200円(当日受付で)
30名分宿泊予約済み

申し込み方法

はがき又は電子メールで、「住所、氏名、所属、電話番号、e-mailアドレス、宿泊の有無、交通手段を下記申込先までご連絡ください。

申込・問合せ先 〒939-2705 富山県婦負郡婦中町宮ヶ島141-5 山口敏夫(北信越OL連協事務局)

TEL 076-466-3288

fwix1311@mb.infoweb.ne.jp

申込期限 平成14年3月12日(火)
(消印/発信有効)